



認知症について

12月12日（木）

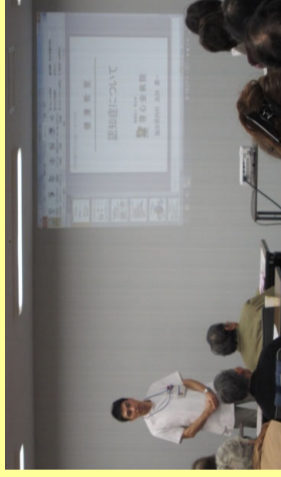
院内において、「認知症」について講演会を開催しました。

講師 啓心会病院 脳血管内科部長 高田 潤一
 啓心会病院 薬剤師 竹内 雄

認知症について

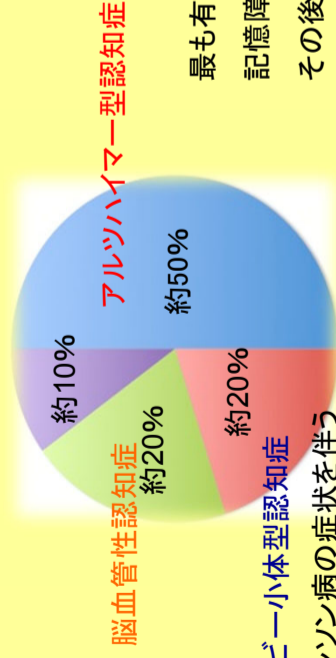
認知症の原因疾患

- 脳血管性の疾患
 - 外傷性疾患
 - 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血など
 - 慢性硬膜下血腫、頭部外傷後遺症など
- 退行変性疾患
 - アルツハイマー病、進行性核上性麻痺、パーキンソン病、びまん性レビー小体病、ピック病、ハンチントン舞蹈病、ALS様症状を伴う認知症、大脳皮質基底核変性症など
- 内分泌・代謝性・中毒性疾患
 - 甲状腺機能低下症、下垂体機能低下症、ビタミンB12欠乏症、ビタミンB1欠乏症、ペラグラ、脳リポドーシス、肝性脳症、透析脳症、ミトコンドリア脳筋症、低酸素症、低血糖症、アルコール脳症、薬物中毒など
- 感染性疾患
 - クロイツフェルト・ヤコブ病、亜急性硬化性全脳炎、進行性多巣性白質脳症、各種脳炎・髄膜炎、脳膿瘍、脳寄生虫、進行麻痺など
- 腫瘍性疾患
 - 脳腫瘍（原発性・続発性）、髄膜浸潤（原発性・転移性）など
- その他
 - 正常圧水頭症、多発性硬化症、神経ベーチェット、サルコイドーシス、シエーグレン症候群など



認知症の原因別割合 その他の認知症 様々な原因疾患がある治るタイプもある

脳卒中の一部の損傷部位の機能障害による発作毎に段階的



パーキンソン病の症状を伴う

日本人が発見

最も有名
記憶障害が主
その後問題行動
重度になるまで運動機能保つ

認知症のおくすり

アルツハイマー型認知症の薬物療法

中核症状(認知機能障害)の進行を抑える薬剤

- コリンエステラーゼ阻害薬:ドネペジル、ガランタミン など
- NMDA受容体拮抗薬:メマンチン

行動・心理症状(BPSD)を軽減する薬剤

薬剤の分類	効果	副作用
抗不安薬	不安や興奮を鎮めて暴力などを改善する	自分の意思とは無関係に口や舌を動かす、ふらつき、など
抗うつ薬	抑うつ症状を改善する	口の渇き、便秘、吐き気、下痢
睡眠薬	不眠症状や睡眠障害を改善する	ふらつき、頭痛、眠気
抗精神病薬 (保険適応外)	興奮を鎮めて妄想・幻覚・暴力などを改善する	パーキンソン症状(手のふるえ、動作が緩慢になる)など

【日本医師会インターネット生薬学習協力講座「認知症診療と新しい情報薬学」】

講演会で寄せられた意見



- ・認知症の遅らせる薬があるということがわかった。
- ・とても分かりやすく話してもらえました。
- ・このような勉強出来る時間を頂いて安心しました。



次回予告

平成27年3月27日（金） 整形外科 荻野先生より
 「骨粗鬆症について」講演を行います
 詳細は、玄関・外来ロビーなどのポスター、配布案内資料をご覧ください
 案内は2月より開始します。
 皆様のご参加をお待ちしています